

# SYLLABUS

2020年

藤華医療技術専門学校

助産学科

授 業 科 目	助産学概論	専門分野：必修	1単位：30時間/実講義時間 30時間	教授方法（講義）
担当者	園田絵里（実務経験者） 助産師	臨床において助産師、看護教員としての実務経験を有している。		
授 業 概 要	助産学の基本概念と助産師の役割・責務を理解し、母子保健活動を主体的に展開するために必要な基本的知識を学習する。			
到 達 目 標	1. 助産の概念を理解する。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、生涯にわたる女性への健康支援を考える。 3. 人間の性と生殖及び生命に直接かかわる助産師としての生命倫理を考える。 4. 母子保健と助産の変遷並びに現状と動向を学び、今後の母子保健のあり方を考察する。			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1～2	4	助産の概念	園田絵里	講義	
3	2	助産に関する概念 リプロダクティブヘルス/ライツ ジェンダー DV・暴力・性の多様性		講義	
4	2	助産師と法律			
5～6	4	助産師の業務・責務と今後の展望		講義	
7	2	助産師の歴史		講義	
8	2	古代から江戸時代までの助産の変遷推移 明治から昭和初期の助産の変遷		講義 講義	
9	2	母子保健の動向 母子保健の歴史 現代の母子保健 母子保健の動向と諸制度		講義 課題レポート	
10	2	助産師と倫理		講義	
11～13	6	事例における倫理問題の検討		グループワーク	
14	2	グループ発表・講評			
15	2	筆記試験・解説			
成績評価		・終講試験（100点満点）によって行う。（ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる） ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書		我部山キヨ子・武谷雄二 編集 助産学講座1 助産学概論 医学書院 ・母子保健の主なる統計 ・我が国の母子保健 ・看護六法 令和元年度版			

授 業 科 目	母子の基礎科学	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間：30 時間	教授方法（講義）
担 当 教 員	檜原 久司（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	奈須 家栄（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	河野 康志（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	甲斐健太郎（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	西田 欣広（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	西田 正和（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	矢野 光剛（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	佐藤 昌司（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
授 業 概 要	人間の生殖系の構造・機能を理解し、ライフサイクル各期の健康問題及びその対処法について学ぶ。生殖医療の動向について学ぶ。超音波診断について概観する。			
到 達 標	1. 人間の生殖系の構造・機能を理解する。 2. 生殖に影響を及ぼす遺伝や不妊の基礎知識を理解し、生殖医療に関する助産師の倫理を考察する。 3. 妊娠に影響する遺伝・免疫・感染についての知識を学ぶ。 4. 女性のライフサイクル各期における健康問題を理解する。 5. 超音波診断の方法を理解する。			

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	遺伝と遺伝性疾患	甲斐健太郎 矢野光剛	講義
2	2	母子と感染 トキソプラズマ、風疹、 サイトメガロウイルス、B19 感染		
3	2	生殖における解剖と生理	檜原久司	
4	2	性感染症	西田欣広	
5	2	生殖補助医療	河野康志	
6	2	母子と免疫	檜原久司	
7	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患（悪性）	奈須家栄	
8	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患（良性）	西田正和	
9	1	筆記試験		

1～2	4	臨床検査	佐藤昌司	講義
3～4	4	超音波診断の基礎 胎児発育の見方・推定体重 胎児各部の観察 超音波検査の倫理的側面		講義
5～6	4	超音波機器の取り扱いと実際 画像表示の見方・基本姿勢・機器取り扱いの注意点 会陰縫合演習		演習
7	1	筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。（ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる）</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>			
教科書・参考図書	我部山キヨ子編集 助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 高橋克幸・武谷雄二監修 助産師・看護師のための超音波画像診断 南江堂			

授 業 科 目	母子の健康科学	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 34 時間	教授方法 (講義・演習)
担 当 者	平川東望子 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している。		
	井上尚実 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している。		
	望月聡 (実務経験者) 教授	大学教授として、教育及び栄養学の専門家としての実務経験を有している		
	阿部文香 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師かつ日本赤十字救急法指導者としての実践経験を有している。		
	麻生清子 (実務経験者) 歯科衛生士	歯科診療の現場において歯科衛生士かつ歯科衛生士養成教育の実践経験を有している。		
	上屋 香 (実務経験者) アロマセラピスト	JAS/JAA/AEJ 各アロセラピー協会認定のアロマイストラクター、メディカルアロマ実践とセラピスト養成の実践経験を有している。		
授 業 概 要	母子の置かれている環境を理解し、母子を取り巻く健康問題や健康に関する基礎知識を学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子がおかれている生活環境・環境汚染等について理解する。</li> <li>2. 母子の栄養、特に妊婦・授乳婦・乳幼児期の栄養の重要性を理解し、健康教育支援のための基礎を学ぶ。</li> <li>3. 薬剤が母子に与える影響について理解する。</li> <li>4. 充実したマタニティライフを送るための健康教育の内容を理解し支援するための基礎を学ぶ。</li> </ol>			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	母子と生活環境 生活環境と環境汚染 母子と化学物質	平川東望子	講義
2	2	母子と嗜好品・薬剤	井上尚実	講義
3	1	筆記試験		
1~2	4	母子と栄養 栄養と栄養素 母子の栄養の課題 望ましい生活 栄養摂取基準	望月 聡	講義
3~4	4	授乳婦の栄養 乳児の栄養 乳児、思春期の栄養 妊産婦の病態栄養		
5	1	レポート		
1~2	4	母子の歯科保健 妊婦における口腔ケアの現地指導 歯周病と全身疾患の関係について	麻生清子	講義
1~5	10	母子と運動 妊婦の運動療法 (マタニティビクスとは) マタニティビクスの実技、構成 グループ発表	阿部文香	講義 演習
6	2	小児救急法		レポート 講義・演習

1～2	4	妊産婦のためのアロマセラピー	上屋 香	講義 演習
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>終講試験（100 点満点）によって行う。（ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる）</u></li> <li>・ <u>提示された課題レポートの提出による評価によって行う。</u></li> <li>・ <u>100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</u></li> </ul>			
教科書・参考図書	我部山キヨ子 編集 助産学講座 3 母子の健康科学 医学書院 講師配布テキストによる			

授 業 科 目	母子の心理・社会学	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 35 時間	教授方法（講義）
担 当 者	四童子 龍子 (実務経験者) 臨床心理士	臨床心理士として、心理療法ケアに携わっており実務経験を有する。		
授 業 概 要	母性の生涯にわたる心理社会面の変化や生殖に関連した心理問題について学習する。 母子・家族の心理・社会的側面を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 女性のライフサイクルにおける心理的問題を理解する。 2. 母子をとりまく家族や社会の機能及び役割について理解する。 3. 子育て支援の現状を理解する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	第1章 女性のライフサイクル各期における心理・社会 第2章 家族関係の発達と課題 第3章 家族と社会 第4章 母親・父親と社会 第5章 子供と社会	四童子 龍子	講義
3～4	4			
5～6	4			
7～8	4			
9～10	4			
11～12	4	カウンセリング的相談・介入	演習・GW	
13～14	4	カウンセリング演習		
15～17	6	筆記試験		
18	1			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> </ul> ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書	村瀬聡美編集 助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院			

授 業 科 目	乳幼児成長発達論	専門分野：必修	1単位：30時間/実講義時間31時間	教授方法（講義）
担 当 者	福島直喜（実務経験者） 医師	臨床において小児科医師として実践経験を有している。		
	宇留嶋 佳子（実務経験者）助産師・保健師	臨床において助産師・保健師、かつ教員として教育指導の実践経験を有している。		
	岡川 良恵（実務経験者）助産師	臨床において助産師、かつ教員として教育指導の実践経験を有している。		
授 業 概 要	乳幼児の成長・発達を理解し、影響を及ぼす要因及び健康問題について学ぶ。また、乳幼児を取り巻く家族や社会の現状と課題を概観する。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の成長・発達に影響を及ぼす要因について理解する。</li> <li>2. 乳幼児の成長・発達の基礎的知識を学び健康問題について考える。</li> <li>3. 乳幼児を養育する家族や社会の現状と課題を理解する。</li> </ol>			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	乳児期の発達の診かた	福島 直喜	講義
2	2	新生児・小児の皮膚病変		
3	2	小児の感染症		
4	2	腫瘍、血液疾患		
5	2	細菌感染症・消化器		
6	2	循環器		
7	1	神経筋疾患		
1～2	4	乳幼児の健康診査と実際	宇留嶋 佳子	講義 講義 グループワーク 演習 発表
3	2	乳幼児の成長と発達		
4	2	子育てと子育て支援		
5～6	4	健康教育（子育て教室）		
7	2	発表・講評		
1～2	4	ベビーマッサージ	岡川 良恵	講義・演習
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・演習参加 グループワーク結果発表によって評価を行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>			
教科書・参考図書	横尾京子編集 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院 横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会			



授 業 科 目	助産学研究	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 3 時間	教授方法（講義・事例研究作成）
担 当 者	梅野貴恵（実務経験者） 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	樋口 幸（実務経験者） 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	専任教員 4 名 （実務経験者）助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	助産に対する科学的知識を深め、助産を発展的に展開できる能力を育成する。			
到 達 目 標	1. 専門職業人として研究の必要性を理解する。 2. 研究の基礎理論や方法を学び、事例研究をまとめることができる。			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	研究の意義	梅野貴恵 樋口 幸	講義
2	2	研究の方法		
3	2	研究の方法 研究の倫理と安全		
4	2	論文の書き方 発表の仕方		
5	2	事例研究		
6～15	16	助産学研究 演習	専任教員 園田絵里 岡川良恵 工藤美奈子 宇留嶋佳子	グループワーク  自己学習
	4	事例研究のまとめ  研究発表 (12月)		
成績評価		<u>・講義出席、及び事例研究 (1. 論文の内容 2. 発表 3. 態度の評価) (100 点満点) によって行う。</u> <u>・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</u> <u>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</u>		
教科書・参考図書		曾我部キヨコ 武谷雄二 編集 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院		

授 業 科 目	周産期の生理と病態 I (妊娠期)	専門分野:必 修	1 単位:15 時間/実講義時間 15 時間	教授方法 (講義)
担 当 者	豊福 一輝 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
授 業 概 要	妊娠期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ			
到 達 目 標	1. 妊娠期における生理と病態について理解する。 2. 正常逸脱の判断ができる知識を修得する。 3. ハイリスク状態にある妊婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	妊娠の診断とその経過  妊娠中の母体の生理的变化とそれに関わる病的状態	豊福 一輝	講義
3～4	4	妊娠に関連した検査・妊娠中の診断		講義
5～7	6	妊娠期の異常		
8	1	筆記試験		講義
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験 (100 点満点) によって行う。</li> <li>・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> </ul> ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書	森 恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会  遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	周産期の生理と病態Ⅱ (分娩期)	専門分野：必修	1単位：15時間/実講義時間17時間	教授方法（講義）
担 当 者	佐藤 昌司 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
授 業 概 要	分娩期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ。			
到 達 目 標	1. 分娩期における生理と病態について理解する。 2. 正常と逸脱の判断ができる知識を修得する。 3. ハイリスク状態にある産婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	分娩経過の診断に必要な知識 1. 分娩の概念 2. 分娩の3要素 3. 分娩経過と所要時間 4. 分娩の機序 5. 分娩が母体・胎児に及ぼす影響	佐藤 昌司	講義
3～4	4	分娩経過の診断・アセスメントの視点 1. 分娩開始の診断 2. 分娩の4要素の関連性 3. 娩出力の状態 4. 産道および胎児の下降度の状態 5. 胎児の発育・健康状態 6. 胎児付属物の状態 7. 産婦の心理的、社会的、文化的な状態		講義
5～6	4	分娩期の異常とそのケア 1. 娩出力の異常 2. 胎児および胎児付属物の異常 3. 産道の異常・分娩時裂傷 4. 早産・過期産 5. 分娩に伴う損傷・合併症		講義
7～8	4	6. 産科手術の介助とケア 7. 会陰縫合術の基本		講義・デモンストレーション
9	1	筆記試験		
成績評価		・終講試験（100点満点）によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		

教科書・参考図書	森 恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第5巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会	
----------	--	--

授 業 科 目	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	専門分野：必修	1 単位：15 時間/実講義時間 17 時間	教授方法（講義・ 演習）
担 当 者	宮本侑子 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	佐藤初美 (実務経験者) 医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。		
	河野富美代 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	和田美智代 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	岡川良恵 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	産褥期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>産褥期における生理と病態について理解する。</li> <li>正常と逸脱の判断ができる知識を修得する。</li> <li>ハイリスク状態にある褥婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。</li> </ol>			

#### 講義計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	産褥期の適応とアセスメント 1. 産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント 産褥期の異常とそのケア	宮本侑子  佐藤初美	講義  講義
3	1	1. 身体的な問題 2. 精神的な問題 筆記試験		試験
1～2	4	乳房ケアの基本（解剖生理とケア）	岡川良恵	講義 演習
1～2	4	産褥期の乳房管理とその実際	河野富美代	講義 演習
1～2	4	母乳育児法	和田美智代	講義 演習
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験、演習出席（100点満点）によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>		
教科書・参考図書		横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会		

授 業 科 目	周産期の生理と病態IV (新生児期)	専門分野：必 修	1 単位：15 時間/実講義時間 15 時間	教授方法（講義）
担 当 者	飯田浩一 (実務経験者) 医師	臨床において新生児科医師としての実践経験を有している。		
授 業 概 要	新生児の生理と異常疾患を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 新生児の生理的経過と異常・疾患について理解する。 2. 低出生体重児について理解する。			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	新生児医療総論 SIDS 虐待	飯田浩一	講義
2	2	新生児仮死		
3	2	新生児呼吸障害		
4	2	新生児呼吸障害		
5	2	先天性心疾患		
6	2	低出生体重児		
7	2	症例呈示		
8	1	筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験（100 点満点）によって行う。</li> <li>・ 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>			
教科書・参考図書	横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 田村正徳監修新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社			

授 業 科 目	助産診断・技術学 I (相談・教育・援助技術)	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法（講義）
担 当 者	宇留嶋佳子（実務経験者）助産師・保健師	臨床において保健師・助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	助産活動を支える援助技術の基本を学び、対象各期に対して効果的な保健指導・健康教育を実践できる能力を養う。			
到 達 目 標	1. ライフサイクル各期を対象とした保健指導・健康教育の意義を理解し、対象にあった基本技術を学ぶ。 2. 各種指導クラスの企画から実践・評価までを学ぶ			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法		
1	2	援助の基本	宇留嶋佳子	講義		
2	2	援助技術の基本				
3	2	健康教育の実際				
4～6	6	個人へのアプローチ 家庭訪問 相談技術①				
7～8	4	集団へのアプローチ 指導技術 相談技術②				
9	2	ライフサイクル各機の女性への支援 思春期女性への援助 相談技術③				
10～11	4	成人女性、更年期女性への援助 相談技術④				
12～14	6	性教育の基本 家族計画 相談技術⑤ 避妊方法① ピル、緊急避妊 相談技術⑥ 避妊方法② IUD・基礎体温・他			グループワーク 発表	
15	2	受胎調節の実践および指導 筆記試験・解説				
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>				
教科書・参考図書		堀内成子編集 助産学講座 5 助産診断・技術学 1 医学書院				

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ (妊娠期)	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 32 時間	教授方法（講義）
担 当 者	園田絵里 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	工藤美奈子 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に妊娠経過の正常・異常を診断するための、妊娠期の助産技術を学習する。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断・技術学の概要を理解する。</li> <li>2. 妊娠期の助産過程の展開に必要な知識と助産技術を学ぶ。</li> <li>3. 妊婦健康診査の診断技術及び支援方法を学ぶ。</li> <li>4. ハイリスク妊娠の診断方法を理解し、支援方法及び他職種との連携を学ぶ。</li> </ol>			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	助産診断とは 妊娠期の心理・社会的変化	園田絵里	講義	
2	2	妊娠期のフィジカルアセスメント 問診・予定日算出	工藤美奈子		
3	2	外診・検診			
4	2	妊婦体操・着帯			
5	2	妊娠期の支援			
6	2	ハイリスク 異常妊婦のアセスメント			
7	2	異常妊婦の支援			
8	2	異常妊婦の支援（社会的ハイリスク）	園田絵里		グループワーク 発表
9	2	妊娠期の保健指導 オリエンテーション			
10～13	8	保健指導案の作成			
14～15	4	保健指導案・指導の実施			
16	2	筆記試験・解説			
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験（100 点満点）によって行う。</li> <li>・ 100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> </ul> ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔妊娠期〕 医学書院 森 恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			



授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ② (分娩期)	専門分野：必修	1 単位：30 時間/実講義時間 35 時間	教授方法（講義）
担 当 者	岡川良恵（ <u>実務経験者</u> ） 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	工藤美奈子（ <u>実務経験者</u> ）助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に分娩期の助産診断を学ぶ。また、分娩介助を行うための基本技術を学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期から継続する分娩経過の予測・診断技法、正常な分娩経過へ導くための支援方法を理解する。</li> <li>2. 対象の多様なニーズを理解し、主体性を尊重した出産のあり方を考察する。</li> <li>3. 助産の実践に必要な基本的分娩介助技術を習得する。</li> <li>4. 異常分娩の診断と緊急時の対応について理解する。</li> </ol>			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	分娩期の助産診断 心理・社会的アセスメント	岡川良恵	講義	
2	2	分娩期のフィジカルアセスメント			
3	2	〃			
4	2	〃			
5	2	内診技術		演習 講義	
6	2	産婦の支援			
7	2	〃			
8	2	分娩介助の意義・原理			
9～10	4	分娩介助技術 教員デモンストレーション			演習 演習 講義
11～12	4	学生デモンストレーション			
13	2	ハイリスク分娩のアセスメント 産婦への支援			
14	2	産科出血			
15	2	筆記試験・解説			
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・実技試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> </ul> ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期産褥期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ③ (産褥期)	専門分野：必修	1単位：30時間/実講義時間35時間	教授方法（講義）
担 当 者	岡川 良恵(実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
	工藤美奈子(実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に、産褥期の助産診断及び褥婦の支援と助産技術について学習する。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>産褥期の経過の予測・診断技法、正常な産褥経過を助長するための支援方法を理解する。</li> <li>産褥期の助産過程の展開に必要な知識と助産技術を学ぶ。</li> <li>母乳育児に関する適切な授乳技術を学ぶ。</li> <li>主体的子育てができるように母子と家族を支援する方法を学ぶ。</li> <li>異常産褥の診断方法を理解し、支援方法及び他職種との連携を学ぶ。</li> </ol>			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	助産診断 特徴と産褥期の診断	岡川良恵	講義
2	2	産褥期のフィジカルアセスメント	工藤美奈子	講義 演習
3	2	アセスメントの実際		
4	2	産褥期の支援		
5	2	① 健康診査、産褥体操		
6	2	② 心理・社会面の支援		
7	2	③ 日常生活支援と指導		
8	2	産褥期の保健指導案作成		
9	2	産褥期の保健指導のデモンストレーション		
10	2	母乳育児支援と乳房ケア①		
11	2	母乳育児支援と乳房ケア②		
12	2	ハイリスク・異常褥婦の支援		
		① 乳房トラブル		
13	2	② 身体的ハイリスク		
14	2	③ 心理・社会的ハイリスク		
15	2	筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・ 100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>			
教科書・参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期産褥期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ④(新生児・乳幼児期)	専門分野：必修	1単位:30時間/実講義時間30時間	教授方法(講義)
担 当 者	園田絵里 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に新生児の適応生理を理解し、ケア方法を学ぶ。 新生児に起こりやすい異常及び疾患を理解し、適切な対応を学ぶ。 乳幼児の健康診査の方法を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 新生児の適応生理を理解し、日常的なケア方法がわかる。 2. ハイリスク・疾患を持つ新生児のケアが理解できる。 3. 乳幼児の健康診査の実際が理解でき、健康診査に必要な技術がわかる。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	新生児期のケアの基本 フィジカルアセスメント	園田絵里	講義	
2～4	6	新生児支援の実際 出生直後～出生後24時間までのケア 生後24時間以後のケア			
5	2	家庭生活移行への支援の基本、 退院指導		講義	
6～7	4	退院指導案作成・(産褥期と合わせて)		グループワーク 演習	
8～9	4	ハイリスク新生児の支援① ハイリスク新生児の支援② ハイリスク新生児の支援③		講義	
10～11	4	基本的技術 理論と実践 新生児の観察 沐浴・計測・出生直後ケア		講義・デモンストレーション	
12～14	6	基本的技術の実際・演習		演習	
15	2	筆記試験・解説		試験	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験(100点満点)によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>				
教科書・参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児・乳幼児期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会				

授 業 科 目	地域母子保健	専門分野：必修	1単位：15時間/実講義時間15時間	教授方法（講義）
担 当 者	姫島 洋子（実務経験者）保健師	地域の保健所において保健師としての実践経験を有している。		
授 業 概 要	地域で生活する母子を含めた家族のニーズを理解し、母子保健サービスを提供する為の基礎知識を学ぶ。 他職種と連携・協働しながら地域の母子保健を推進するための能力を養う			
到 達 目 標	1. 母子保健サービスが提供される意義と仕組みを理解する。 2. 地域における母子保健活動の展開を理解する。 3. 地域における母子保健活動の計画を立て、実践できるための方法を学ぶ			

### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	地域母子保の意義	姫島洋子	講義
2	2	地域母子保健の現状と動向		講義
3	2	我が国の母子保健行政		講義
4	2	わが国の主な母子保健制度と母子保健施策		講義
5	2	地域母子保健活動の展開		講義
6～7	4	国際化時代の地域母子保健		講義
8	1	筆記試験		
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験（100点満点）によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>		
教科書・参考図書		武谷雄二他編集 助産学講座9 地域母子保健	医学書院	

授 業 科 目	助産管理	専門分野：必修	2単位：30時間/実講義時間31時間	教授方法（講義）
担 当 者	戸高佐枝子 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している。		
	生野未子 (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している。		
	渡邊めぐみ (実務経験者) 助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している。		
	宇留嶋佳子 (実務経験者) 助産師・保健師	臨床において保健師、助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	助産業務の管理及び助産所の運営の基本及び周産期医療システムを学ぶ。 周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について学ぶ。			
到 達 目 標	1. 法的規定に基づく助産師の業務管理を理解する。 2. 周産期医療システムと地域連携について理解する。 3. 病院・診療所・助産所での業務管理を理解する。 4. 周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について理解する。			

#### 授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1 2～3 4 5 6	2 4 2 2 1	第1章 助産管理の基本 第2章 関連法規と助産師の業務・責任 第3章 周産期管理システムとリスクマネジメント 第4章 病産院における助産管理業務 筆記試験	渡邊めぐみ	講義
1～2	4	第5章 助産所における助産管理業務	戸高佐枝子	講義
1 2～3 4	2 4 2	「自分達の助産院を作ろう」 発表	宇留嶋佳子	講義 GW
2	4	分娩期の診断・技術論 助産所における助産管理業務 (12月)	生野未子	講義
2	4	助産師に必要なエコー技術 (12月) 院内助産 助産師外来 クリニカルラダー	渡邊めぐみ	講義
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・終講試験(100点満点)によって行う。</li> <li>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</li> <li>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</li> </ul>		
教科書・参考図書		成田伸編 助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全 日本看護協		

	助産業務ガイドライン 日本助産師会	
--	-------------------	--

授 業 科 目	助産診断・技術学実習	担 当 教 員	学内教員 臨床指導 者	実務経験 有	単 位	妊娠期 2 分娩期Ⅰ 2 分娩期Ⅱ 2 産褥・新生児期 2 ハイリスク 1	実 施 時 間 数	405
授 業 概 要	妊産褥婦及び胎児・新生児の助産診断・技術を実践し、妊娠・分娩・産褥が自然で安全に経過するための支援方法を学ぶことを目的とする。							
到 達 目 標	妊 娠 期	① 妊娠期の診断に必要な情報について述べることができる。 ② 妊婦期の情報分析ができる。 ③ 妊婦の健康診査ができる。 ④ 妊娠期の診断に基づいて妊娠各期に応じた健康教育と支援が実施できる。 ⑤ 正常を逸脱した妊婦に対し適切な支援を述べるができる。						
	分 娩 期 Ⅰ Ⅱ	① 分娩期の診断に必要な情報を述べるができる。 ② 分娩期の情報分析ができる。 ③ 産婦の主体性を尊重した分娩期の生活援助及び産痛緩和の援助ができる。 ④ 母子愛着形成への支援ができる。 ⑤ 分娩介助技術を安全に実施できる。 ⑥ 異常分娩や産科手術の介助または救急処置を見学しその要点を述べるができる。 ⑦ 産婦の分娩想起と出産体験を理解することができる。						
	産 褥 ・ 新 生 児 期	① 産褥期・新生児期における母子の助産診断ができる。 ② 褥婦のセルフケア能力を高める支援ができる。 ③ 褥婦に必要な保健指導が個別性をふまえて実施できる。 ④ 早期新生児の診断とケアができる。 ⑤ 母子関係成立、母乳栄養の確立に向けて支援ができる。						
	ハ イ リ ス ク	① ハイリスク状態にある対象の助産診断ができる。 ② 妊産褥婦に行われる治療を理解し、健康状態に応じた援助が実践できる。 ③ 保健医療職種間のチームワークと社会資源がわかる。 ④ ハイリスク児のおかれている医療・看護の概要がわかる。 ⑤ ハイリスク児の見学を通して、助産師の役割を理解する。						

単位	時間	内容	担当教員	教授学習方法
2	90	1. 妊娠期の助産診断 2. 妊娠期の保健指導 3. 継続事例（妊娠期）の助産過程	学内教員	臨地実習 体験 見学・カンファレンス 教授学習方法

2	90	4. 分娩期の助産過程 5. 分娩介助 (10 事例程度)	学内教員	臨地実習 体験 見学・カンファレンス
2	90	6. 継続事例 (分娩期) の助産過程		
2	90	7. 褥婦・新生児の助産過程 8. 褥婦・新生児への保健指導 9. 継続事例の助産過程		
1	45	10. ハイリスク妊産褥婦の助産過程 11. NICU の見学		

評価方法：臨地実習出席状況、助産・診断学実習評価、分娩介助評価、レポート

テキスト：随時提示する。



授業科目	地域母子保健実習	担当教員	学内教員	単位	1	実施 時間数	45
授業 概要	地域における母子保健活動の実際を理解し、地域における助産師の役割を学ぶ。						
到達 目標	① 地域の特性と母子保健事業の概要がわかる。 ② 母子保健事業と助産師・保健師の活動内容が理解できる。 ③ 地域母子保健に関する関係機関との連携・協働について学ぶ。 ④ 地域における助産師の役割が理解できる。						

単位	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	37.5               7.5	1. 保健所・市役所 ① オリエンテーション ・地域の特性 ・母子保健事業 ② 母子保健活動の実際 ・相談事業や保健指導 ・乳幼児健診 ・家庭訪問 ③ 関係機関との連携・協働 ④ カンファレンス 2. 地域での助産師活動の見学 ① 思春期性教育 ② 健康教育 ③ 地域でのイベント	学内教員	臨地実習 体験 見学・カンファレンス

評価方法：臨地実習出席状況、地域母子保健実習評価表、レポート

テキスト：随時提示する。

授 業 科 目	助産管理実習	担 当 教 員	学内教員	単 位	1	実施 時間数	4 5
授 業 概 要	助産管理の実際を理解し、管理のあり方・助産師の役割を学ぶ。						
到 達 目 標	① 助産所・産婦人科医院における助産管理が理解できる。 ② 助産所における助産業務の実際がわかる。 ③ 助産師の地域での役割を理解できる。 ④ 助産師としての自律をふまえ責任ある行動と態度を考えることができる。						

単 位	時 間	内 容	担当教員	教授学習方法
1	37.5  7.5	1. 助産所 ① オリエンテーション ・助産所における助産管理業務、責任範囲 ・助産所における医療安全の確保、医療事故防止の対策 ② 助産業務の実際 ③ カンファレンス 2. 産婦人科医院 ① オリエンテーション ・助産管理業務 ・各実習施設における医療安全の確保、医療事故防止の対策	学内教員	臨地実習 体験 見学・カンファレンス

評価方法：臨地実習出席状況、助産管理実習評価表、レポート

テキスト：随時提示する。

授 業 科 目	特別教育活動	担 当 教 員	学内教員	単 位	単位換算なし	実施 時間数	5 4
授 業 概 要	多様な価値観と感性豊かな人間性を養うことを目的とする。						
到 達 目 標	自己の助産観を深めるように常に研鑽することができる。						

月	時間	内容	担当教員	教授学習方法
4	10	自治会歓迎会・自治会総会	学内教員	学校行事
5	4	エンブリオ大分 特別講演		講演会参加
6	4	講演会参加（大分県助産師会総会后）		講演会参加
7	8	研修会（大分県助産師会 主催）		研修会参加
10	4	大分県母性衛生学会 講演会並びに学術集会		学会参加
11	8	大分県 キャリアアップ研修会（大分県主催）		研修会参加
11	8	藤華祭（学園祭）		学校行事
2	8	研修会（大分県助産師会 主催）		研修会参加